

マシダフ・ステージと心のなかに持とう

——あしがきに代えて

壮大な野外ステージのドラマは終わった。

幕は降りたが、期待したハッピー・エンドではなかった。

いや、「人間の花、いま開く」のドラマにエンド・マークはないのだ。終りははじまりにつながっている。幕が降りたあと、胎蔵マンダラの舞台とドラマ・シナリオの金剛界マンダラの二つともを、こんどはわたしの胸の内に取り込んで、これからこそわたし自身が主役になって演じはじめることになる。

客席から一観客として序幕を見た。

ついで胎蔵マンダラの舞台に仕組みられてあった十の階段をのぼることで鍛練を積み、それによってステージで私たちの脇役を演じるどころまで進んだ。

そして、これからはわたしが主役になって人生の舞台を歩んでいくことになる。

大丈夫だろうか。

自分が分かりにくくなったら、胎蔵の十の階段で出会った私たちを思い出してほしいし、判断に迷うことがあれば、ステージで演じられた七幕のドラマのいろいろな場面を思い返して、そこから判断のヒントをつかんで、誤りのない決断をしてほしい。

このマンダラ劇場には、実生活上のいろいろな問題を解決する鍵がいくつもいくつも含まれている。



無財の七施
むざい しちせ

宿施
しゆくせ

訪れた人を
快く迎える

座施
ざせ

席をゆずる

眼施
げんせ

あたたかい
まなざし

身施
しんせ

からだを使って
手だすけする

心施
しんせ

やさしい心

言施
ごんせ

和やかな言葉

顔施
がんせ

おだやかな顔



どんなに落ち込んでも

マンダラは

再起の縄ばしご



逆境のとき、うまく調御された煩惱は意外な力となって、善い方向へ流れを転じる活力になってくれるだろう。

なによりいいのは、このマンダラ・ドラマは、どんなに落ち込んだときでも、再起の足掛かりをどこかに用意してくれていることだ。

たとえば供養する心は、ものもお金もなくても相手を喜ばせ、自分も快くなれる。

入我我入の教えは事業に取り組むときの実践的な示唆を与えてくれている。

全体との調和を回復することで、自分らしさが発揮できるといふあたりは組織のなかに生きる者の姿勢を暗示してくれている。

宇宙的な規模の調和とか、時間の悠久さをマンダラのなかに見ていると、自分の小さなこだわりを相手に押しつけようとはしなくなるだろう。

特別に超能力は得られなくてもいい。

人生のいろいろな瞬間にマンダラ・ドラマを思いかえしてほしい。人生の充足度をはかる目安としても、このマンダラ舞台をいつも心のなかに築いてもらえれば、もっとすばらしい。

胎蔵マンダラ

マンダラはわが心の鏡

金剛界マンダラ



本稿を終えるにあたって、二つのことを付け加えさせていただきたい。

一つは、いかに生きるかの視点だけに絞って、わたしなりの解釈を貫いたことである。密教マンダラは最高度に完成された宗教画だから、そこには無尽蔵な価値が秘められている。しかし尊い、有り難いと拝んでいるだけでは、マンダラに向かう姿勢としては物足りない。目隠しをして対象を撫で、一部をつかんだだけなのに、それで全体が分かったつもりにはなるまいと、自分に戒めてきたのだが、やはり、その弊害に落ち込んでいるかもしれ

ない。強引な読み方をしたり、意味を取りちがえている箇所があるかもしれない。あくまで、本書は「わたしはマンダラをこう読んだ」という試みなのである。

もう一つは、密教世界は言葉や合理的な分析では十分に伝えられないので、マンダラという表現方法が取られてきたにもかかわらず、そのマンダラを言葉で分析しようとしてきたことである。

これは根本的に矛盾しているし、わたし自身、うまく伝えられないのがゆさを何度も味わうことになった。

この矛盾を超えるためには、あなた自身に「マンダラ体験」をしていただきたいと願うほかない。

マンダラ体験とは、第一に密教マンダラに無心で向き合うことであり、第二にはそこに密教瞑想法を取り入れることである。マンダラの前にゆったりとした気分で坐り、ゆつくりと息を吐ききり、ついで胸一杯に吸う。これを一として十まで数えて精神集中する数息観だけでもいい。その上で機会があれば密教独自の瞑想法を体験してほしい。

蓮華台にのった月輪がちりんに阿字を描き込んだ阿字観本尊軸を前にして、月輪を意識のなかで自分の胸に迎え入れ、宇宙大にまで拡大し、自分が阿字そのものとなる修練である。

ほんとうのマンダラ理解は、こうした密教瞑想と不可分の関係にある。

瞑想についての手ごろな実習案内書としては平井富雄著「坐禅健康法」（ごま書房）、山崎泰広著「密教瞑想法」（永田文昌堂）をあげておきたい。

それから、蛇足のようにになるが、本書のできたいきさつにふれておきたい。

密教マンダラを生きかたの指針とできるように図解で分かりやすくという依頼を受けて、

阿字観本尊



わたしはとまどった。マンダラが未消化であっただけでなく、マンダラを生きかたとからめて見る習慣がなかった。しかし、言われてみるとマンダラが宗教画であるかぎり、そこに生きる指針が含まれていないはずがない。

マンダラ成立の歴史とか仏の配置については精緻な研究があるが、生身の人間にマンダラがどうかかわってくるのかについて論じられたのを知らない。

それだけに苦しんだが、それは張りのある苦しみであり、その過程でマンダラは仏たちの舞台（胎藏）とドラマ（金剛界）の組み合わせだという構図が閃いた。思いがけないことで、むしろマンダラの側からヒントを与えられたような感じだった。

あとは、比較的すらすらと解読ができた。

書き終えたいまも、もっと探究を深めていきたいという意欲が十二分に残っている。

なお、言葉でマンダラを解く難しさを殿村進氏がたくみな絵でカバーしてくださった。厚く感謝申し上げます。

平成元年九月二十三日

寺林 峻

* 主な参考図書

- 梅尾祥雲著「曼荼羅の研究」(高野山大学出版部)
松長有慶編「曼荼羅」(大阪書籍)
石田尚豊著「曼荼羅のみかた」(岩波書店)
真鍋俊照著「曼荼羅の世界」(朱鷺書房)
頼富本宏著「マンダラの仏たち」(東京美術)
佐和隆研著「仏像図典」(吉川弘文館)
錦織亮介著「天部の仏像事典」(東京美術)

寺林 峻(てらばやし しゅん)

昭和14年、兵庫県生まれ。慶応義塾大学文学部卒業。第57回オール読物新人賞受賞。著書に『幻の寺』(春秋社)『播州歌舞伎の主役たち』(日本放送出版協会)『神々のさすらい』(角川書店)『たたら師鎮魂』(三省堂)『立山の平蔵三代』(東京新聞出版局)『空海・高野開山』(講談社)『最澄か空海か』(経済界)『空海の名言集人はどう生きてらいいのか』(フォー・ユー)などがある。

絵でわかる マンダラの読み方

1989年10月25日 初版発行

著者 寺林 峻

発行者 中村洋一郎

発行所 株式会社 日本実業出版社

東京都文京区本郷3丁目2番12号 ☎113

☎代表 03(814)5161 振替 東京7-25349

大阪市北区西天満6丁目8番1号 ☎530

☎代表 06(362)6141 振替 大阪2-17558

印刷/厚德社 製本/共栄社製本

©S. Terabayashi 1989. Printed in JAPAN
ISBN4-534-01517-8

落丁・乱丁本は、送料小社
負担にてお取替え致します

下記の定価は消費税込みです。

仏教がわかる事典

鈴木尚 編著 定価1340円

釈迦の生涯、教典の教え、宗派の成り立ちなど、仏教を理解するうえで知っておきたい基礎知識をコンパクトに解説。日本人の心の奥に根づいた仏教の全体像がやさしくわかる『読む事典』。

宗教がわかる事典

大島宏之 定価1340円

仏教、キリスト教、イスラム教、神道、新宗教……etc.宗教は人間、歴史とともにある。宗教と文化、社会、宗教をめぐる珍しい話等々、宗教に関するすべてがやさしくわかる事典。

入門

般若心経の読み方

ひろさちや 定価1010円

物質文明の中でせわしない毎日を送る現代人に、いまこそ必要なこころの自由と安らぎを与える般若心経262文字の教えを詳説。般若心経の一語一語の真実の知恵が人生にあかりをとす。

読む・唱える・書く・描く・祀る

般若心経のすべて

公方俊良 定価1240円

むずかしい理屈は一切排除し、般若心経の教えを自分の人生の中でどう生かすか、その活用ノウハウを説く。読誦のしかた、写経・写仏のやり方、先祖供養・開運祈願のしかたなど。

絵で読む禅問答

公方俊良 新書判 定価 790円

「禅問答」とは、悟りに導く者と導かれる者のギリギリの応酬であり、磨きぬかれた知恵の結晶。むずかしいと思われがちな禅問答の代表的なものを、平易な文と親しみやすい絵で解説。

絵で読む般若心経

花山勝友 新書判 定価 700円

般若心経262文字の深遠な教えを、全頁に味わい深い絵・写真を入れて、やさしく説き明かす。苦しみ悩みつつ、せわしない俗世を生きる現代人の心に安らぎと真の自由を与えてくれる。